Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-05-13

「ニーベルンゲンの歌」をめぐる人文地理学的アプローチ : 神聖ローマ帝国シュタウフェン朝におけるゲルマン・ジークフリート伝説の再生とその精神性をめぐる研究

川西, 孝男

(Citation)
人文地理学会2017年大会:96-97

(Issue Date)
2017-11-19

(Resource Type)
conference object

(Version)
Accepted Manuscript

(Rights)
ここに掲載した著作物の利用に関する注意:著作物の著作権は人文地理学会に帰属します。本著作物は著作権者である人文地理学会の許可のもとに掲載するものです。ご利用に当たっては”著作権法”に従うことをお願いいたします。

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/90004366

「ニーベルンゲンの歌」をめぐる人文地理学的アプローチ ――神聖ローマ帝国シュタウフェン朝におけるゲルマン・ジークフリート伝説の再生とその精神性をめぐる研究――

A Study of Das Nibelungenlied using Human Geographic approach: The Renewal and its Spirit of the Germanic-Siegfried Legend in Hohenstaufer Dynasty(HRR)

川西　孝男（関西学院大学・博士研究員）
KAWANISHI Takao　(Ph. D.　Fellow, Kwansei Gakuin University)

キーワード：「ニーベルンゲンの歌」, ゲルマン・ジークフリート伝説, シュタウフェン朝, アンデクス・メラン大公家, ブルグンド（ブルゴーニュ）,パッサウ司教座,ハンガリー王国, 「パルツィヴァール」, アーサー王伝説,「ニーベルングの指環」
Keywords：Das Nibelungenlied, Germanic-Siegfried Legend, Staufer Dynasty(HRR) , Haus Andechs Meranien, Burgundy (Bourgogne), Bistum Passau, Kingdom of Hungary, Parzival, Arthurian Legend, Richard Wagner: Der Ring des Nibelungen

本論の概要

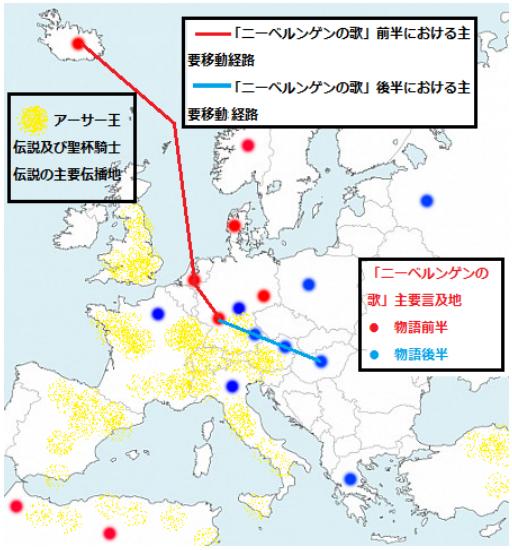
ゲルマン最大の叙事詩・英雄譚として知られる「ニーベルンゲンの歌」は、北欧ゲルマンのジークフリート伝説を中心に13世紀前半までにヨーロッパ中央部で作成されたと言われる。しかし、その作者は知れず、また当時のミンネジンガーの詠う愛や信仰・理想をテーマとしたものとは一線を画し、部族内の血の同盟と忠誠ゆえの姦計と復讐、戦闘によって破滅に至る内容となっており、「滅びの美学」などと称されることもある。一方で、主人公の１人とされるジークフリートは竜をも退治し、諸国を従えたゲルマンの英雄であったことから、19世紀から20世紀にかけての民族主義の台頭と世界大戦の時代には戦争プロパガンダ化され、人類史上未曾有の戦禍と犠牲者を出したことは今なお記憶に新しい。

この「ニーベルンゲンの歌」作成の背景そしてその意図、歴史的意義をめぐる研究は今日も続けられているが、この解明の糸口に「地理学的視点」が注目されて久しい。すなわち、ドイツ、オーストリア国境のパッサウの地理的記述が詳細であることから、作成関係者がこの地を中心に活動していた可能性、そして物語に登場するパッサウ司教(司教座)が関わったことを示唆したものである。

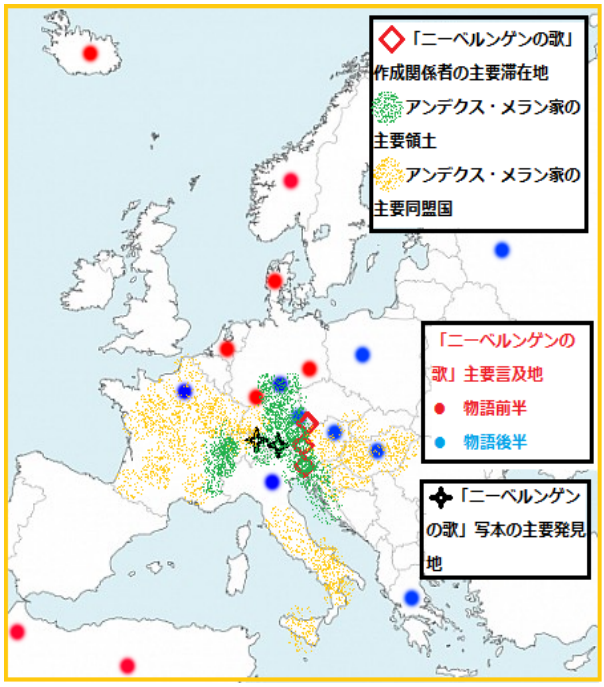
本論は、上記の定説や先行研究を土台に「ニーベルンゲンの歌」作成の経緯と、物語の構成について再検討し、新たな「ニーベルンゲンの歌」の全容を提示する。すなわち、「ニーベルンゲンの歌」が単なるゲルマン伝説の編纂と再生に終始するものではなく、この13世紀に伝説を「リニューアル」しており、当時の神聖ローマ帝国史そして世界史と密接な関係を有していたことを明らかにする。さらに、当時のシュタウフェン朝のヨーロッパ大陸における実質的支配者であったアンデクス・メラン大公家が作成に関わっていたことを例証する。この「ニーベルンゲンの歌」が北欧ゲルマン伝説を基にしながら、シュタウフェン朝とアンデクス・メラン家の断絶の歴史的事実を伝えるものであったこと、そして彼らが遺した「ニーベルンゲンの歌」に込められた「真意」そして「現代へのメッセージ」に迫りたい。

第１図　Nibelungenlied (Handschrift B)

第２図　Nibelungenlied(Image)



第３図　「ニーベルンゲンの歌」の主要言及地とアーサー王伝説の主要伝播地（13世紀前半、筆者作成）



第４図　アンデクス・メラン家領土及び同盟国と「ニーベルンゲンの歌」関係地（13世紀前半、筆者作成）

第５図　**Haus Andechs Meranien (Herzog)**

第６図 **Otto von Botenlauben in Große Heidelberger Liederhandschrift**

第７図 **Schloss Ambras in Tirol**（筆者撮影）

＜主要参考文献＞

Joachim Heinzle, *Das Nibelungenlied*, Ulm, 2015

Christoph Fasbender(Hrsg.), *Nibelungenlied und Nibelungen klage :neue Wege der Forschung*, Darmstadt, 2005

Otfrid Ehrismann, *Nibelungenlied: Epoche, Werk, Wirkung*, München, 1987

Ernst Uehli, *Die drei grossen Staufer: Friedrich I. Barbarossa - Heinrich VI - Friedrich II*, Wiesbaden, 2010

Josef Kirmeier, Evamaria Brockhoff(Hrsg.), *Herzöge und Heilige. Das Geschlecht der Andechs-Meranier im europäischen Hochmittelalter*, Haus Bayerischen Geschichte, 1993

Lothar Hennig(Hrsg.), *Die Andechs-Meranier in Franken. Europaeisches Fuerstentum im Hochmittelalter,* Mainz, 1998

Joachim Bumke, *Hoefische Kultur-Literatur und Gesellschaft im hohen Mittelalter-*,DTV, 1999

Rainer Trübsbach, *Geschichte der Stadt Bayreuth.* 1194–1994. Druckhaus Bayreuth, 1993

川西、『聖杯騎士伝説の研究』、関西学院大学出版会、2016

＜主要な現地研究交流機関及び踏査地＞

Historischer Verein für Oberfranken e.V., Bistum Passau, Bayerische Staats bibliothek, Universität Heidelberg, Nibelungen Museum Worms, Schloss Wolfstein, Ortenburg(Germany), Stiftsbibliothek St. Gallen(Swiss), Hohenems, Pöchlarn(Austria)